

2016年7月13日
在マルセイユ日本国総領事館

自然派を売りにするホームステイ先での性的被害の報告について

2012年8月に「南西フランスに所在する体験型宿泊施設における性犯罪被害」について当館ホームページで注意喚起を行いましたが、最近、複数の日本人女性の方から、南西フランスのラングドック地方に所在する体験型宿泊施設において、性犯罪に発展するおそれのある事案が発生した旨報告がなされています。

その概要は、同宿泊施設では、ナチュラルリストを自称するフランス人オーナー男性及びその配偶者の日本人女性が下半身を出してリビングに現れたり、リビングやバスルームにフランス人オーナー男性等が全裸で写っている多数の写真が掲示されたりしている他、宿泊者の寝室において窓を閉め切った状態でフランス人オーナーとヨガを行うよう指示するなど、不自然な行動が見られます。過去には、全裸でヨガを行うよう仕向けられたり、マッサージ中に不自然な触られ方をしたり、臀部を触られたりしたケースも報告されております。

同宿泊施設は、インターネットのホームページ上で施設の内容を案内しており、有機農業をしながら暮らしていること、ヨガ体験ができること等を案内しています。

一般的に、こうした施設に宿泊される場合は、疑問点等があれば事前に確認する等して宿泊中の活動内容について明らかにしておくとともに、万一、宿泊中に上記のような事案が発生した場合には、毅然とした態度をとり相手につけ込まれないよう自己防衛してください。

また、万一不測の事態が発生した場合には、すぐに仏国警察（電話番号：17、携帯電話からは112も可能）に通報するとともに、当館まで御一報ください。